

3.4-3.6GHz帯における
既存システムとの共用検討パターン(案)
(衛星系システムとの組合せ)

(株)NTTドコモ
2012年10月12日

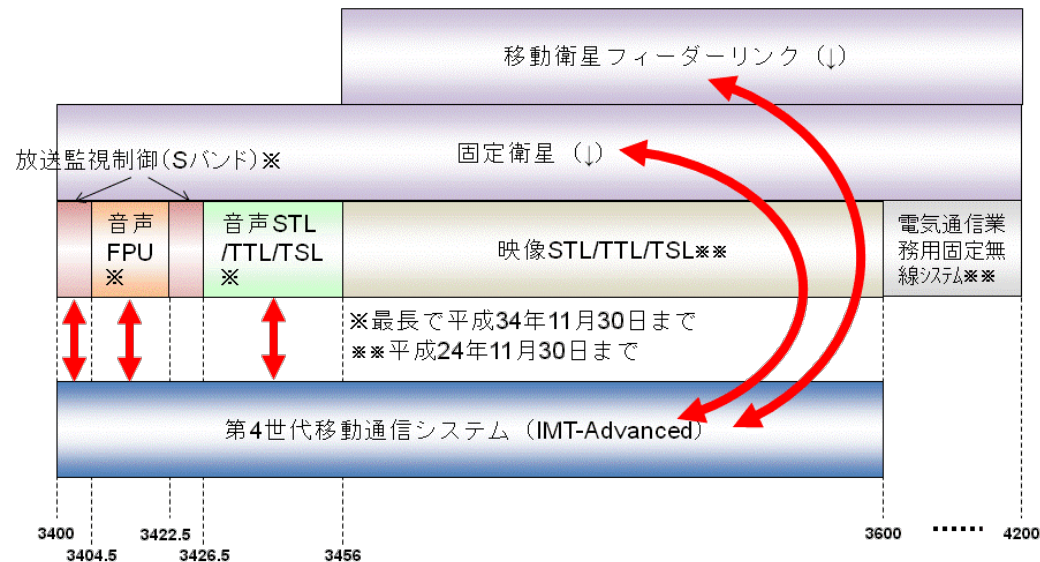
検討対象システムについて

– 既存システム

- 音声FPU
- 音声STL/TTL/TSL、放送監視制御
- 衛星系システム

– 携帯電話システム (IMT-Advanced)

- 基地局
- 陸上移動局
- 陸上移動中継局
- 小電力レピータ



対象とする周波数配置図

衛星系システムとの干渉検討について

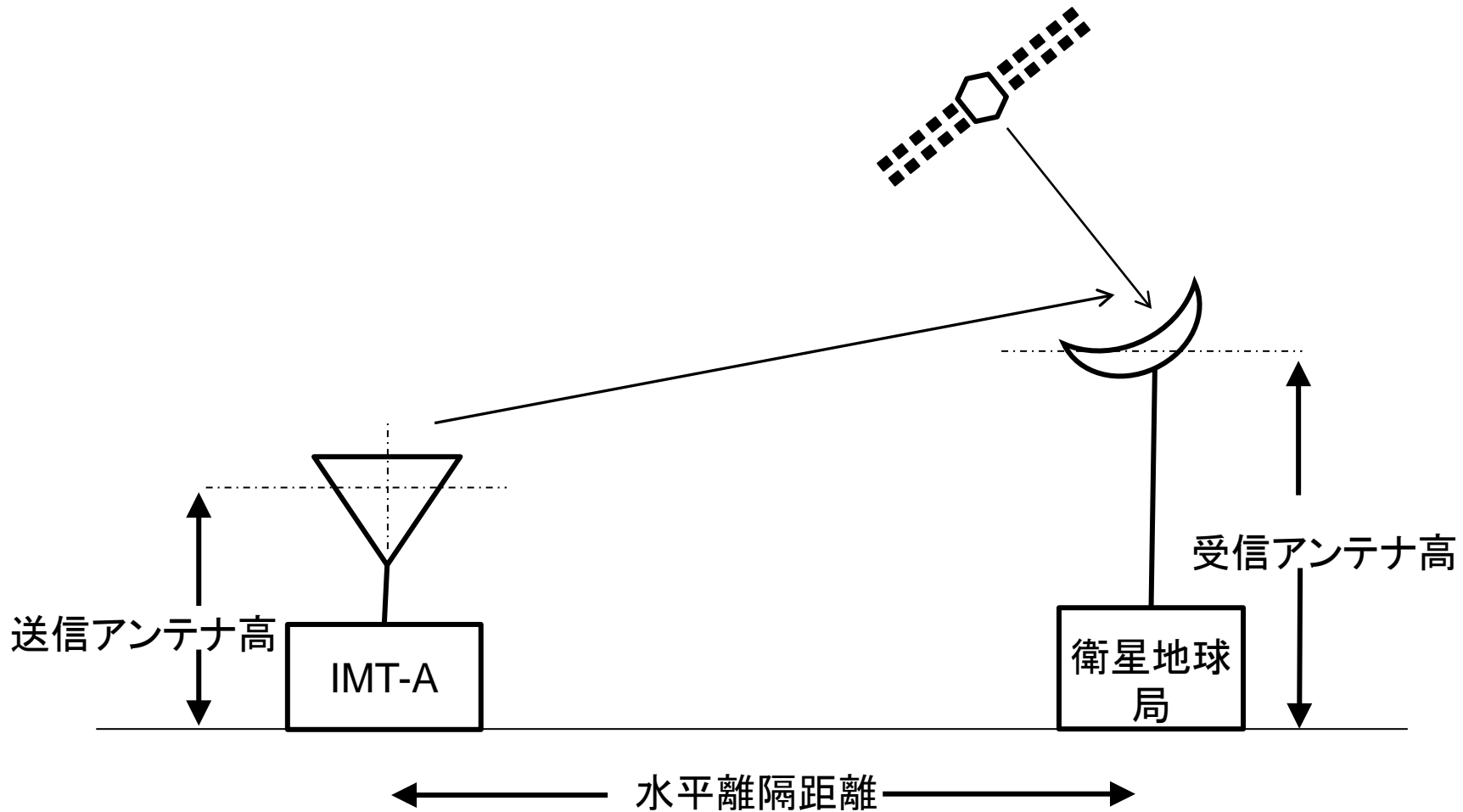
- 検討手法
 - 1対1の検討を基本とする。
 - 陸上移動局、陸上移動中継局、小電力レピータについては、1対1の検討では共用の判断ができない場合には、確率的調査も実施。
 - 下記項目も、モデル化を手始めに検討を継続する
 - 同一エリアに存在する衛星地球局を集約し、各エリアでの最悪条件となるパターンを代表しての検討(参考1参照)、あるいは典型的な衛星地球局を設定しての検討
 - 複数の携帯電話無線局からの干渉の影響
 - 衛星地球局における受信フロントエンド飽和の影響
 - 伝搬モデルの影響
- 干渉検討シナリオ
 - 同一チャネル干渉
 - 隣接チャネル干渉

IMT-Advanced(与) → 衛星系システム(被) 干渉検討パターン(案)

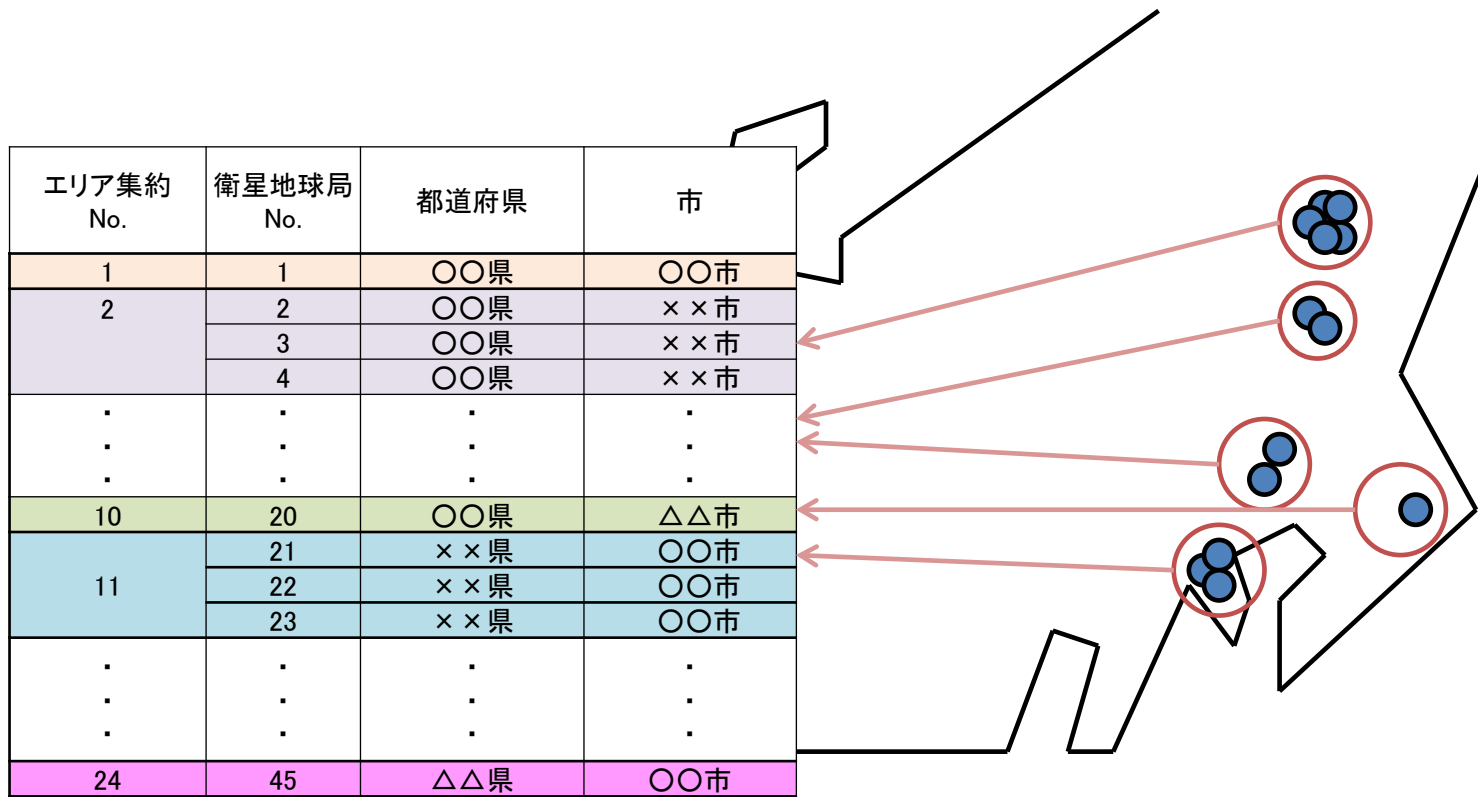
			被干渉			
			衛星系システム			
与干渉	IMT-A(送信)	基地局		○		
		陸上移動局		○		
		ピータ 小電力レ	陸上移動局対向器		○※	
			基地局対向器	一体型	○※	
				分離型	○※	
		中継局 陸上移動	陸上移動局対向器		○※	
			基地局対向器		○※	

※同一チャネル干渉については、基地局、陸上移動局との共用条件が支配的であると想定されるため、その結果を持って実施を判断。

衛星系システムの検討パターンのモデル



(参考1). エリア別集約イメージ(案)



- 同一エリアに存在する衛星地球局を集約し、各エリアでの最悪条件となるパターンを代表し検討する